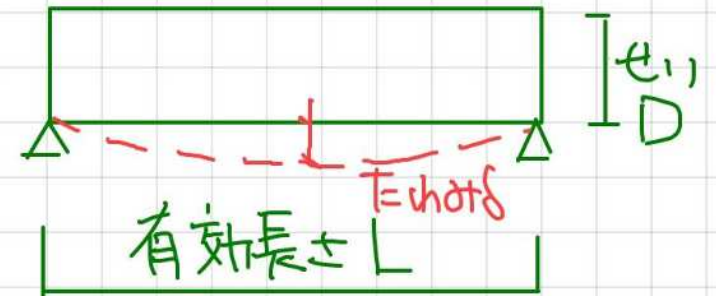


No.1  
 施行令第82条四号

四 国土交通大臣が定める場合においては、構造耐力上主要な部分である構造部材の変形又は振動によつて建築物の使用上の支障が起こらないことを国土交通大臣が定める方法によつて確かめること。

告示 621号

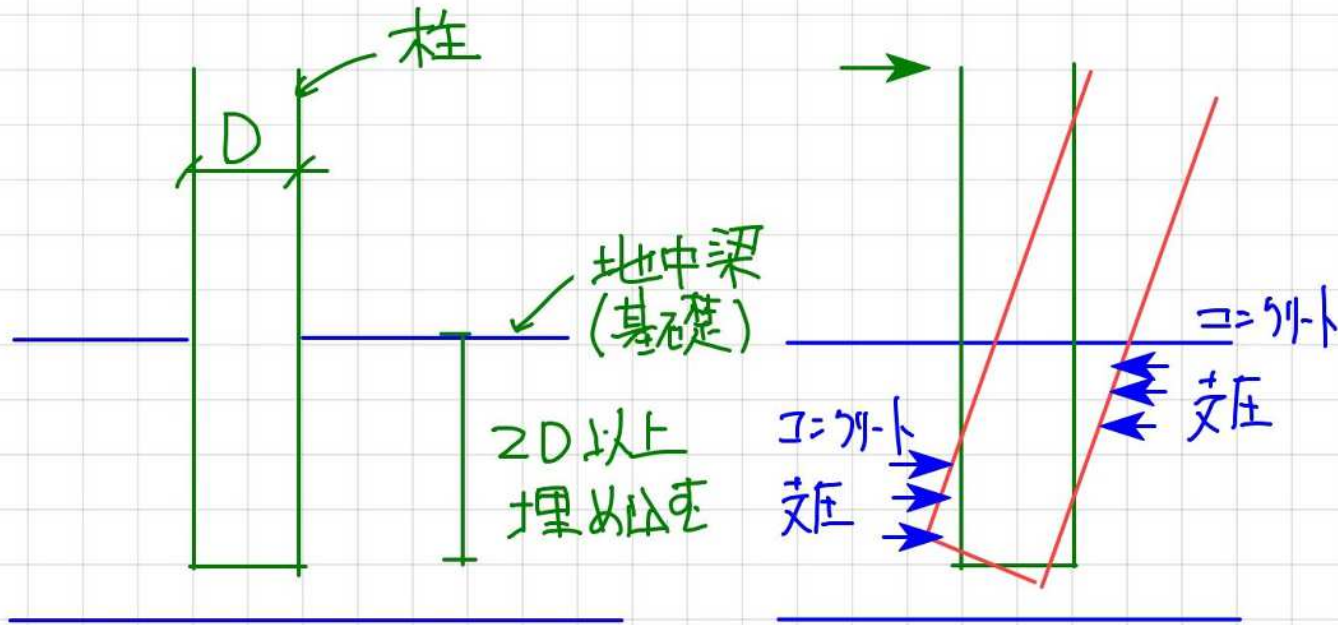
建築物の部分		条件式
木造	はり (床面に用いるものに限る。以下この表において同じ。)	$D/l > 1/12$
鉄骨造	デッキプレート版 (床版としたもののうち平成十四年国土交通省告示第三百二十六号の規定に適合するものに限る。以下同じ。)	$t/lx > 1/25$
	はり	$D/l > 1/15$
鉄筋コンクリート造	床版 (片持ち以外の場合)	$t/lx > 1/30$
	床版 (片持ちの場合)	$t/lx > 1/10$
	はり	$D/l > 1/10$
鉄骨鉄筋コンクリート造	はり	$D/l > 1/12$
アルミニウム合金造	はり	$D/l > 1/10$
軽量気泡コンクリートパネルを用いた構造	床版	$t/lx > 1/25$



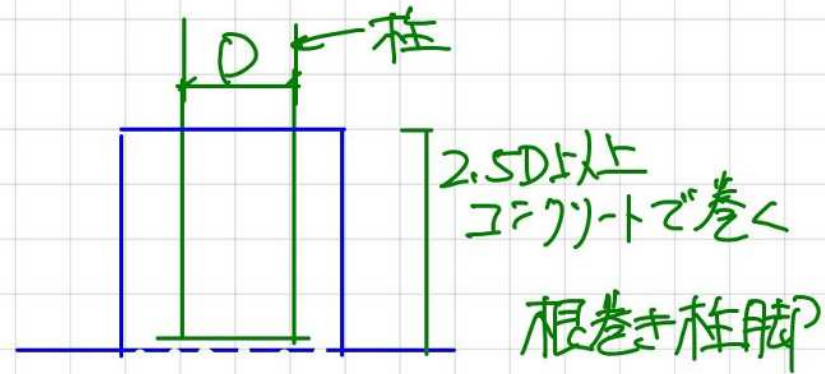
$$\frac{\delta}{L} \leq \frac{1}{250}$$
 (例)  $\frac{250}{5000} = \frac{1}{20} < \frac{1}{15}$   
 NG

$$\delta \leq \frac{L}{250}$$
 (例)  $\frac{5000}{250} = 20mm$

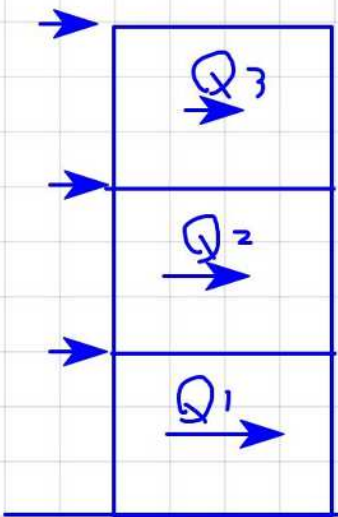
N02



埋め込み柱脚



No. 3



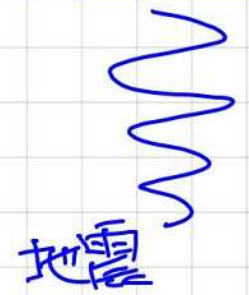
地震層せん断力  $(Q_i) = \sum \cdot R_t \cdot A_i \cdot C_0 \cdot W_i$

$\uparrow$  標準せん断力係数 (地震の大き)  
 $\sim$  建物の重量

- 中地震  $C_0 = 0.2, 0.3$
- 大地震  $C_0 = 1.0$

鉄骨造  
設計ルト

	ル-1-1	ル-1-2	ル-2	ル-3
中地震 $C_0$	0.3	0.3	0.2	0.2

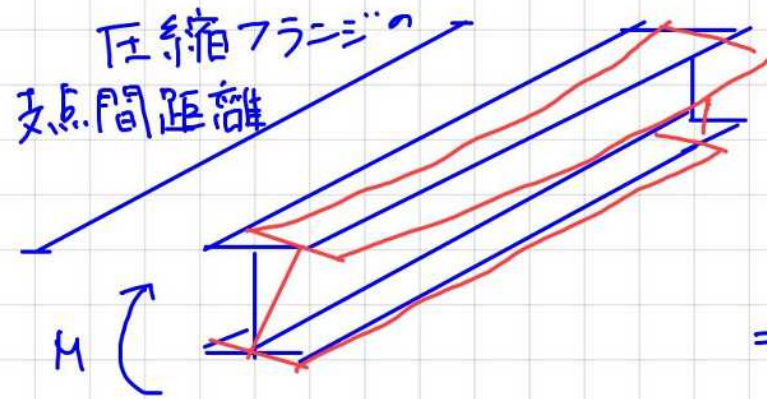


冷間成形  
角形鋼管

柱に生じる力を割増す  
柱の耐力を大きくする

塑性加工により、靱性が  
低下しているのを補うため

No.4



横倒れ(横座屈) 一次設計(中地震)

↓  
許容曲げモーメントが低下する

二次設計(大地震)

十分に塑性変形が生じるまで横座屈(たわみ)は可

横座屈(たわみ)の支点間距離は可